

持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点（RCE） （国連大学高等研究所）

背景

持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点(Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development: RCE)の構想は、2005年に国連大学高等研究所の持続可能な開発のための教育プログラム(EfSDプログラム)で、作り上げられました。RCEは、国際的な目標を地域のコミュニティにおいて実施することによって、2005年から2014年までの「国連持続可能な開発のための教育の10年(DESDE)」(以下、「教育の10年」)の目標達成を目指します。

EfSDプログラムは、市民や政策決定者の能力開発を大きな目標として掲げ活動しています。特に政策決定者に対しては、「教育の10年」の終わりまでに、国の開発計画や、その実施の際に、持続可能な開発のための教育(ESD)の要素が組み入れられるよう、提唱・普及活動をしています。具体的には、次の五つの活動を中心に展開しています。

- ESDおよび「教育の10年」の提唱・推進と普及
- RCEの推進とそのネットワーク強化
- 高等教育機関のESD活動の強化
- ESDのためのオンライン学習の開発
- ESDに関する指導者の養成



名執芳博(右)、ジナイダ・ファディーバ(左)

目標

RCEは、地方や地域のコミュニティでESDを広めるための、既存の公的、非公的機関のネットワークです。このネットワークは多様かつ分野横断的なステークホルダーから成り、ESDを推進するための情報交換、協議、協働のための場を提供します。同時に、ESD活動を支えるための情報、経験を蓄積する知識ベースとしての役割も果たしています。

RCEでは、ESDに係わる多様な立場の人や団体が交わる場のメリットを活かしながら、4つのESDの柱を推進しています。

- **持続可能な開発(SD)に向けた教育の再編成。** ESDの視点から、既存の学習課程や科目を再編し、総合的なSDのカリキュラムを作成する。
- 地域状況において最も必要とされている**質のよい教育へのアクセスを向上させる。**
- **指導者のための研修プログラムを提供し、指導の方法論や教材を開発する。**
- 持続可能な未来の構築のために、ESDの担う重要な役割や、教師や指導者の重要性について、**市民の意識を向上させる取組みを先導する。**

RCEは、環境への責務、社会的公正、生活の質の向上などのESDの長期目標を推進します。

RCEは、個々に、また協働で、「教育の10年」の目標達成のためにそれぞれの地域で活動を展開すると同時に、世界中のRCEネットワークによって、「持続可能な開発のための世界的な学習の場(Global Learning Space)」を構築します。

ユネスコが「教育の10年」の理念として挙げている¹、「あ



環境の日・ポスターデザインコンテスト
(インド・RCE ラクナウ)



原油の除去作業(韓国・RCE インチョン)

あらゆる人々が、質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な将来と社会の肯定的な変革のために求められる価値観、行動、及びライフスタイルを学ぶ世界」のひとつのあり方として、国連大学が「持続可能な開発のための世界的な学習の場」を提唱しています。

ステークホルダー

RCE には、学校や大学の教員、地域の NGO、科学者、研究者、博物館・美術館、動物園、植物園、地方公務員、地元企業の代表者、ボランティア、メディア、経済成長・社会開発・環境保護など持続可能な開発に関わる市民団体あるいは個人、そしてあらゆるレベルの学生や学習者が参加しています。

地理的範囲

RCE の地域とは、経済的、文化的、社会的等質性を有する一国内の地域、又は同規模の国をまたぐ地域で、フランスのブルターニュ地方や、日本の東北地方、スペインのカタルーニャ地方のような地理的範囲を想定しています。その中に大学、博物館、動物園、植物園等の専門機関や多くの教育機関を含むような十分な広がりが必要で、対話や、協議を重視することから、直接の協議が可能な範囲内に止まる必要があります。

世界の RCE ネットワーク

世界の RCE (2008 年 11 月現在)



「グローバル化と持続可能な開発のための教育」をテーマに開催された国連大学/ユネスコ会議 (2005 年 6 月名古屋) で、最初の 7 つの RCE が認定されました。以来、RCE ネットワークは拡大し続け、現在世界で 55 の地域が RCE として認定されています。

RCE は、各活動地域が直面する問題に取り組んでいるため、扱う問題も活動も多様です。最近では、世界の RCE ネットワークを活かし、共通のテーマに取り組む RCE 間での協力が活発になってきています。とりわけ、持続可能な生産と消費、青年や若者の活動、保健、生物多様性、E ラーニング、教師養成などの分野で、それぞれの経験から学びあい、協働を進めています。また、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ、アジア太平洋の大陸別のネットワークも発足し、大陸で共通した問題に取り組むため会合を開き意見交換したり、共同で資金調達を試みているネットワークもあります。

RCE の次のステップは、個々の RCE が内包する豊かな多様性と、地域性を反映した世界中の多様な RCE で構成されるネットワークを活かし、包括的で分野横断的な ESD の基本理念を尊重しながら、各認定地域において、さらには共通の課題に関心を持つ RCE 間で、具体的な協働事業を展開して行くことです。

お問い合わせ先

国連大学高等研究所 持続可能な開発のための教育プログラム
住所：220-8502 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1 パシフィコ横浜 国際協力センター6 階
TEL：045-221-2300 FAX：045-221-2302
MAIL：rceservicecentre@ias.unu.edu Website: www.ias.unu.edu/efsd

ESD 推進のための アジア太平洋環境大学院ネットワーク (ProSPER.Net) (国際連合大学高等研究所)

持続可能な開発のための教育 (ESD) に取り組む大学

「アジア太平洋環境大学院ネットワーク (Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research Network: ProSPER.Net)」は持続可能な開発に取り組むアジア太平洋地域の主要な大学が、大学院の講座やカリキュラムに持続可能な開発を統合するために共同で取り組むためのネットワークです。ネットワークを構成しているのは、持続可能な開発や、それに関連する分野の教育と研究に重点を置き、大学院プログラムを設置している、または開設の構想を持っている高等教育機関です。

国連大学高等研究所のイニシアチブ

国連大学高等研究所の持続可能な開発のための教育プログラム(EfSD プログラム)はあらゆる教育課程のカリキュラムと社会のすべてのセクターに ESD の要素を組み入れるために、研究と能力開発に取り組んでいます。

アジア太平洋地域の著名な高等教育機関の学問と研究のためのネットワークは、国連大学高等研究所が、大学院レベルでの ESD と SD の理解と実施を強化するために呼びかけ、発足した取り組みです。

ネットワーク

現在、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、韓国、タイの 16 大学と、2 つの地域の高等教育機関がこのネットワークに加盟しています



ProSPER.Net 憲章調印式にて

次のリストの 18 の高等教育機関がネットワークのメンバーです。

RMIT 大学 (オーストラリア)

同済大学 (中国)

TERI 大学 (インド)

ガジャマダ大学 (インドネシア)

北海道大学

岩手大学

宮城教育大学

名古屋大学

岡山大学

立教大学

信州大学

東京大学

マレーシア科学大学 (マレーシア)

フィリピン大学 (フィリピン)

延世大学 (韓国)

チュラロンコン大学 (タイ)

アジア工科大学

南太平洋大学

共同事業

ProSPER.Net は、持続可能な開発、特に持続可能な開発のための教育(ESD)に関する大学院教育と研究を前進させる連携のプラットフォームとして機能します。本ネットワークの活動は以下を含みます。

1. 大学院生の持続可能な開発に関する活動への関与を推進
2. 大学教員養成・学校教員養成
3. 政府職員の研修
4. 持続可能な開発の要素をビジネススクールのカリキュラムに統合あるいはプログラムとして展開
5. 持続可能な開発に関する事例研究
6. 高等教育機関の持続可能性に関する取組みをマッピング (取組状況を把握するためのリサーチ)
7. 地域・地元の人々に関わることができる活動
8. 修士・博士課程学生対象のサマースクールの開設
9. 持続可能な開発に関して大学教員の協働を促進

本ネットワークでは、次の三つの共同事業にまず取り組んでいます。

- 持続可能な開発をビジネススクールのカリキュラムに組み込む
- 持続可能な開発に関する教員と研究者のための研修
- 持続可能な開発と政策に関する大学院課程のプログラムの開設

お問い合わせ先

国際連合大学高等研究所 (UNU-IAS) 持続可能な開発のための教育プログラム

住所: 220-8502 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 国際協力センター6階

TEL : 045-221-2300

FAX : 045-221-2302

MAIL : ProSPER.Net@ias.unu.edu Website: www.ias.unu.edu/efsd/prospernet

AGEPP : Asia Good ESD Practice Project

アジア ESD 推進事業 - 実践交流ウェブサイト構築と実践ハンドブック制作 (NPO 法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議(ESD-J))

概要

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 (ESD-J) は、2005 年の国連持続可能な開発のための教育の 10 年の開始時より、アジアの草の根レベルでの ESD 推進と、推進のためのネットワークの重要性を、各国際会議を通してアピールをし、アジアの NGO との交流を進めてきました。

アジアの市民による ESD ネットワーク作りの第一歩として、2006 年より ESD-J は、「アジア ESD 推進事業 - 実践交流ウェブサイトの構築と実践ハンドブックの制作」(Asia Good ESD Practice Project: AGEPP、以下 AGEPP) を進めています。プロジェクト実施期間は 3 カ年 (2006 年～2008 年) で、トヨタ環境活動助成プログラムによる支援を受けています。アジアの NGO と共に、アジアの伝統や暮らしに編みこまれている知恵や、地域に根ざした ESD の実践事例を発掘・文書化することを通じ、アジアでの ESD の推進と、ネットワークの構築を目標としています。

目標

- ・ 2 回の事例調査をとおして、約 30 の地域に根ざした ESD の実践事例を発掘し文書化
- ・ 収集事例、プロジェクト概要・進捗、ESD 関連ニュースを多言語 (英語、中国語、韓国語、日本語、タガログ語、インドネシア語、ネパール語) で閲覧できるウェブサイトの構築
- ・ AGEPP で集積された知見をもとに、地域における ESD 活動を成功に導くエッセンスを抽出
- ・ アジアにおける ESD の特性や、アジアで実践されている ESD の視点の明確化
- ・ 地域における ESD のハンドブックを 6 カ国語で作成
- ・ アジアにおける ESD 民間ネットワークの構築

AGEPP のこれまで

- 2006 年**
- *AGEPP 参加 NGO の公募および選考
 - *AGEPP 第一回国際会合の開催 (東京)
選出事例のフォーマット、プロジェクトの方向性について議論
 - *AGEPP ウェブサイト運営開始
 - *12 事例を収集
- 2007 年**
- *AGEPP 第二回国際会合の開催および韓国 ESD 国際フォーラムへの参加 (韓国統営市)
事例フォーマットの見直し、事業の方向性や今後の AGEPP 成果の利活用について議論
 - *AGEPP インド事例対象地域の視察 (グジャラート州)
 - *第 4 回環境教育国際会合にて特別セッションを開催 (アーメダバード市、インド)
AGEPP のプレゼンスをアピールし、アジアにおける ESD ネットワークのあり方を議論
 - *19 事例を収集
- 2008 年**
- * アジアから G8 サミットへ、持続可能な社会へ向けた市民組織からの提言会合の開催
AGEPP の視点を整理し提言作成へ
 - * G8 環境大臣会合および洞爺湖サミットに向けて提言発表
 - * NGO 市民サミットにて AGEPP および提言
 - * AGEPP 第三回国際会合の開催 (東京)
ハンドブック編集に向けて事例を分析
 - * AGEPP ハンドブックの作成

AGEPP の事例

農業、貧困撲滅、女性、子どもの権利、障害、公衆衛生、3R、先住民族、エコツーリズム、農村コミュニティの再生、都市化、河川環境保全など、多様なテーマの活動を紹介する 31 事例を収集しています。

課題

アジアには、「人間は自然の一部である」という価値観が存在してきました。人は、周囲の自然条件に生活を合わせ、自然に適度に働きかけながら自然を活用するという、自然と人間社会の折り合いをつけながら文化を形成してきました。しかしながら、持続可能な社会のあり方を考えるヒントともいえるような知恵は、近代化、グローバル化の中では価値を失ってなくなりつつあります。

AGEPP の事例で取り上げられてきた活動の多くは、地域に根ざした知恵（民衆知＝ローカル・ナレッジ）をとらえ直し、未来に向けてそうした知恵を取り入れながら現在の生活をもやい直していくという視点が盛り込まれていました。民衆知に着目することで、失われていた人と人のつながりや、人と地域とつながり、人と自然のつながりが復活しました。「つながり」の再構築は、地域の自然や社会の再生につながってきたばかりでなく、そこに住む人びとの自信（エンパワメント）にもつながりました。

民衆知をふりかえり、再度検討しながら現在の地域作りに取り入れていく活動はESDであり、このようなESDが、真に自立した地域や内発的な開発へとつながっています。そして、その活動をつくっているのが市民組織（NGO）です。民衆知に根ざした活動を推進し、そうした活動の価値を国・地域・国際レベルでのESD推進機関の活動にも盛り込んでいくことが重要であると思われます。

AGEPP は、2008 年を持って終了しますが、このような取り組みは、AGEPP に参加をしなかった国や地域にも無数にあると思われます。民衆知や活動において民衆知をうまく取り入れていけるような仕組み作り、そしてそうした活動をする市民のネットワークを強化していけるような人的・資金的支援が不可欠であると思われます。

AGEPP を特徴づける「こだわり」をご紹介します！

AGEPP のこだわり(1) ロゴ



黄色と緑をベースにしたデザイン
緑はアジアを象徴する
稲の色、黄は、ESD-J
のロゴから

AGEPP のこだわり(3)参加型の会議



話し合いでは、各参加者が裏紙に書き出す言葉をどんどん貼り出します。2 時間ほどのセッションで、セロテープ一巻を使い切ります。(写真は、AGEPP 第 2 回国際会合より)

AGEPP のこだわり(4) 共通の事例フォーマット

AGEPP の事例報告には、比較や分析をしやすく、共通のフォーマットを使っています。内容は、AGEPP が大切にしている視点、プロジェクトマネジメント、事業の自立発展性、手法、国際的なイニシアティブとの関連性など。1 事例のページ数は、20 ページ前後、写真を多用しています。

AGEPP のこだわり(2)

パートナー団体がすべて NGO



AGEPP 参加 NGO

- 【インドネシア】BINTARI (Bina Karta Lestari) Foundation
- 【フィリピン】Environmental Broadcast Circle Association Inc (EBC)
- 【インド】Centre for Environment Education (CEE)
- 【ネパール】National Resource Center for Non Formal Education (NRC-NFE)
- 【中国】自然之友
- 【韓国】Local Sustainability Alliance of Korea (LSAK)
- 【台湾】Earth Passenger
- 【日本】ESD-J

AGEPP のこだわり(5)

AGEPP 多言語ウェブサイト



英語、日本語、アジアの複数語で読むことのできる多言語データベース機能を有したウェブサイトを運営しています www.agepp.net/

お問い合わせ先

NPO 法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議 (ESD-J)
住所：〒151-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F
TEL : 03 - 3797 - 7227
FAX : 03 - 6277 - 7554
MAIL : fumiko@esd-j.org